

# 基金の活用について(病床機能の転換等に係る回復期病床整備事業)

八戸市立市民病院分

## 1. 事業実施計画

病院敷地内に在宅医療の後方支援機能を担う、地域に必要とされている独立型の緩和ケア病棟を整備する。

回復期機能に係る医療を提供する病棟とし、病床数は20床(全室個室)とする。

実施設計	平成29年10月～平成30年7月
工事	平成30年11月～平成32年3月
供用開始	平成32年3月

## 2. 病床機能転換

平成29年度病床機能報告 (平成29年7月1日時点)		平成30年度病床機能報告(予定) (平成30年7月1日時点)		平成31年度病床機能報告(予定) (平成32年7月1日時点)	
高度急性期	82床	高度急性期	106床	高度急性期	106床
急性期	470床	急性期	446床	急性期	446床
回復期	床	回復期	床	回復期	20床
慢性期	床	慢性期	床	慢性期	床
合計数	552床	合計数	552床	合計数	572床

### 【参考】緩和ケア病棟整備計画についての昨年度の地域医療構想調整会議における協議状況

- 在宅への移行や在宅医療の後方支援を担うという意味で、地域医療構想の趣旨に沿っていると思われる。
- 回復期機能や在宅医療の後方支援を担うということで、地域医療介護総合確保基金の活用による支援が可能である。